

(SOTN による前稿の続き)

ハザール・マフィアが支配している！

歴史的事実として知っておきたい——**Khazarian Mafia**「ハザール・マフィア」なるもの <http://themillenniumreport.com/2018/06/the-khazarian-mafia-you-dont-know-what-you-dont-know/> が、**アメリカ株式会社** (米連邦政府と呼ばれることもある) を、1913年の米連邦準備銀行法 (Federal Reserve Act) 以来、完全に自己の所有とし、運営してきた。しかし、アメリカ共和国の接収 (takeover) は、実は、1776年の独立宣言の署名と、米国憲法の批准によって始まっている。(注：これは1776年の独立と同時に、ひそかに、秘密結社イルミナティなどによる、独立剥奪の運動が始まった、という意味。)

ローマはこれまでずっと、バチカンおよび、特に、常に反動を煽るイエズス会を通じて、アメリカ人民に対して戦争を仕掛けてきた。実を言えば、神聖ローマ帝国は「第一帝国」とも呼ばれ、決して滅びたことはない。それはただ、「第4帝国」すなわちアメリカ合衆国に変形しただけである。そのことは、「ハザール・マフィア」という銀行屋たちが、数世紀にも及んで、効果的にバチカンを支配してきたことを意味する。それは彼らが、リモート・コントロールによって、アメリカを何十年も支配してきたのと、同じやり方による。

<http://themillenniumreport.com/2018/06/khazarian-mafia-hellbent-on-a-one-world-government-at-any-cost/>

実は、北イタリアの **Black Nobility** (暗黒の貴族) が12世紀の間、ベニス共和国を通じて、この地球を静かに支配していた。 <http://themillenniumreport.com/?s=black+nobility> ベニス、ジェノア、ミラノ、トリノ、フロレンス、ボローニア、ローマ等々、すべてが最初の現代的な株式会社の勃興を体験した。これこそ、アメリカ株式会社が、ローマによってコントロールされ、Holy See (ローマ教皇庁) がそれらすべてを所有している理由である。そして、その一つひとつが、タルムード (ユダヤ律法) による金貸しと、イタリアの商人によって、何世代にも及ぶ通婚によって、支配されていた。これが、フロレンスのメディチ家のような、極端に力を持つ、北イタリアの銀行家族たちが、バチカンのための神の銀行として知られるようになった理由である。

Shekels (シケル銀貨、カネ) を支配する者が、すべてを支配する

この肝心の理解があれば、なぜこれほど多くのイタリア系アメリカ人、特に VIP たちが、**THE GREAT SCAMDEMIC**（大スキャンダル・パンデミック）の間に、アメリカ市民を抑圧し、奴隷化しようとして、悪名を馳せているかが、理解しやすくなるだろう。

<http://themillenniumreport.com/?s=the+great+scamdemic>

参照せよ：「なぜイタリア系アメリカ人 VIP が、汚い行為をするように選ばれるか？」

<https://stateofthenation.co/?p=13985>

Tony Fauci

Nancy Pelosi

Andy Cuomo

Chris Cuomo

Bill de Blasio

Gus Perna

Rudy Giuliani

Pat Cipollone

キーポイント：これら悪役たちのある者は、中世の **Black Nobility** にまで遡る、秘密のユダヤ家系に属していて、彼らは、人間関係において、ロスチャイルド家やロックフェラー家をも凌ぐ、大きな影響力をもつ、目に見えない、地上の権力者を代表する者たちだと言ってよい。ベニスの銀行家たちが、究極的には、ロンドンに拠点を移したので、ジョージ・ソロスのようなカバン持ちは、イギリス王家の背後の真の権力者のための、フロントマンであるにすぎない。常に覚えておくべきこと：——**宗教的/靈的権能（パチカン）が、財政的/経済的な権力（ロンドン）を従わせ、それは次に、政治と軍事力（ニューヨークとワシントン DC）を従わせている。**

この否定できない分析の結論として言えることは、トランプは、2020 年には全くチャンスがなかったということである。彼の選挙の見込みは最初から閉ざされていた。そしてそれは、民主党や、深層国家や、New World Order グローバリスト陰謀団のせいではなかった。むしろそれは、**ハザール・マフィアに支配された Black Nobility** が、バイデン-ハリス政権を希望し、「グレート・リセット」が、アメリカ全土に導入されることを望んだのだった。そこには、いくつかの重要な理由があるが、それはこの記事の能力の範囲ではない。

ここでの最終的ポイントは、世界の権力の、この切れることのない鎖は、シーザー（皇帝）たちにまで遡ることである。そして、トランプ大統領は、3月15日（the Ides of March）に、ローマ元老院で、ジュリアス・シーザーに与えられたのと同じ、裏切りの仕打ちを与

えられた。しかし、トランプの場合には、全くマキアベリ的な Black Nobility は、物理的暗殺よりも、人格的暗殺の方がはるかに都合がよく、特に、ハザール・マフィアに支配された「モッキングバード・メディア」によって実行される方が、役に立つことを知って動いている。

以上、State of the Nation, January 30, 2021

<https://stateofthenation.co/?p=50405>

〔Greatchain 訳注〕

これは SOTN による、「ハザール・マフィア小史」というべき、本当はもっと息の長い、詳しい歴史を、短くまとめたものである。しかしこれによって、トランプという、アメリカの歴史で初めて現れた、稀有な人物が起こしつつある大変革が、どれほどの大きな意味をもつかがわかるであろう。これは、トランプが歴史を全部知っているという意味ではない。はからずも、そういう大役を引き受けることになった、ということである。これは、トランプは悪魔と戦って、神の役を果たそうとしていると言っても、それは、彼が神や天使だという意味ではないと、いつも言っていることと同じである。

いま我々地球人一般が、相手にして戦っているものの正体は何か？ それは、この中で、Black Nobility の説明図として、ピラミッドに書かれている Iniquitous Reprobates（邪悪な、神に見捨てられた者たち）であろう。まあ、これについては議論もあるだろうし、すべて SOTN に従う必要はないだろう。

しかし現時点で、何が起きているか、考えてみていただきたい。トランプを決して許すなどと言って「団結」する者たちは、トランプが職を辞した後でも、あくまで彼を「弾劾裁判」にかけようと必死になっている。この異常な執念は何を意味するだろうか？ それは単なる、個人や党派の、敵意や反感ではないだろう。それは彼らが、自分たちの本来の所有権を主張する、この地球そのものを渡すまいとする執念のように思える。それはトランプでなく、神を許すまいとするルシファーの執念であろう。そのような観点から彼らを観察すると、彼らの言動がよく見えてくるように思える